

貢献の形

環境蘇生にかける思い



2005.5.9

貢献の形

私とハーモニーウォーター

三態という様を持ち、天と地をかけ巡る水は、不思議であり、じっくり考えると畏敬の思いすら湧いてくる。

もともと人の生命は羊水という水の宇宙で芽ばえ育まれ、やがて時が来たりて生命閉じる時、炎で水を返して、あるいは大地の中で水の営みを終える。

水と出会い、水と別れていく、生命と水は大変近いところで影響し合っているように思っている。

かつて、私の中で水はただの水分であった。今、水はその資質により、様々な事を果たせる勇者のように存在を変えた。

たとえば、体内の水は生命の正しい情報伝達の安定した場として、健康へと導こうとしてくれる。よって日々、どのような質の水と暮らすかは、生命に対して、最も注意すべき事になった。

科学は元来苦手でもくくれなかった。むしろ悪い印象しかもっていなかった。化学は人を殺す。その一面のみを受け入れほかの面は考えることもせず、シャットアウト。

しかし、そもそも水もH₂Oという科学で言い表せるもの。そう思うと昔には科学があふれている。私は科学を自転車にたとえ

て考えている。科学が前輪、テクノロジーは後輪、そして方向、どこへ進むのか、乗り手には愛がある。ただ、科学とテクノロジーだけというのは、どこにでもある。愛をなくした、科学とテクノロジーには意味はあまりなく、私たちはそういう科学の有り方を大切にしていきたい。



以前、私は小規模ですが、アマゾンの水の生態系を守る運動をしていました。そこには、未だ人類が足を踏み入れたことのない場所もあり、もしかすると人類の病を救う貴重な植物等も生育しているのではないかと、日本の裏側でもある。と守ることにとおおいに意義を感じていました。ある時、現地に住む方と会うことが出来、そこで私が託されたことは、「本当の水の科学者を探せ」ということでした。

当時、水のゆりかごと言われる場所に、他国の科学者や企業が目をつけ、アマゾンの水を世に送り出そうと、手を出してきていました。

彼はそれはアマゾンの意志とは思えない、本当の水の事を考える科学者を！と言うのです。



1999年、ようやくその人を訪ねて、東北へ出かけ様々な話しをさせてもらいました。その方は地球環境蘇生を実現させる水、ハーモニーウォーターを研究、開発されている方でした。

その時、私が言われたことは、「守るという行為で守ることは出来ない。その場所がカプセルで囲まれてでもない限り、全て循環している。極きょくのアザラシ達にダイオキシンが見つかる時代なんですよ。守るということは正しい科学とテクノロジーによる積極的なアプローチがいる。あなたたちが良き思いで貢献しようと思っているのは、わかるがあなたたちに足りないのは、正しい科学とテクノロジー、それに伴う行動だ。私の水は地球に貢献します。そういうことをしたいのではないか。」

出会いというのは、ありがたいものです。それまで私のボランティアをしてきた独りよがりの自己満足の喜びを打ち砕いてくれ、今、地球に貢献する、ハーモニーウォーターをお伝えすることを選ばせてもらい、ボランティアをしながら何だか感じていた空しさは生れず、全てのボランティアをやめてもこのハーモニーウォーターのことをする

ことで、それ以上のことができる実感しています。

違いを尋ねられると果てしがないかもしれない。男女、生まれ、育ち、信仰、等々、ただ“生命”に中心を置くと共通。生命の営みは何も変わらない。この同じものに対して発信しつづけていく水の（ハーモニーウォーターの）科学に夢中です。

憂うれうべき現代、地球の有りよう様に回帰運動という形を唱える方々もおられる。時間を有効に使いたいと生活している今、車から自転車に変えられるだろうか。何日間は出来たとしても続けられない。

それは文明の進歩の中に居るから。だとしたら生活は変えず内容を変えることで、より進歩的に生活して、なおかつ、地球の蘇生につながったら続けられる。

それは科学に愛がないと実現しない。

積極的に車を走らせることで排気口よりマイナスイオンが出る。当然負荷が少なくなるので燃費も向上する。完全無公害の洗剤、飲んでも良さを発揮・・・。

こうして飲んで使用しながら貢献できる。さて、あなたの貢献の形みつかりましたか。

ある時から何となく目標にしていたことがあった
「死してなお貢献できないか」さて、どうしたらよいのだろうか。何をすればよいのだろうか。
次に生きる人達に多大な影響も残せはしない個人にとってどうあれば達成できるのだろうか
頭に浮かんで事にかまけて遠のき、ふっと又その命題が寄せてくる
そんな日々を繰り返す中一文が飛び込んできた
「大自然より与えられた生命いのちが元の大自然にかえり再び大自然の建設に参加する。死は無にかえるのではなく新しい大自然の創造に参加するものである。」
まさに意を得たり。こうゆう事を願っていたのだと気付く。
これは京都大学の第16代総長、平澤興こ先生（今から55年前）が述べた言葉である。（先生はもっと大きな意味をもっておられると思うが）
さて、この生命いのちを次の大自然の創造に参加させるためにはその時まで何を思い何を食し、何を身体に使い、入れてきたかが重大な要件になる。
大自然わくの枠を外した物は次の足しになるどころか異物になり消化されず土の中でもくすぶり続ける。
この身体が公害の元になり創造の参加どころかやっかいな足かせとなり目的の達成はみない

「もう、生命いのちの誕生は関係ない年齢だから」なんて言ってもらえない。
次の世代の誕生は私たちの年齢だからこそしっかり考えて暮らさなければと思う。
偉大な功績のこを遺した方々のようにその姿が像になったりするのではなく、静かに一つの生命の幕引きがありそして生態系の肥やしになる。憧あこがれてしまう。
出来る限り着々と目標に近づけよう。
よく笑おう、家族にはよく話し伝えよう。
身体には化学的な物は入れずにいよう。あんまり強い薬は入れたくないなあ。食べ物に注意し、食品はハーモニーウォーターに浸そう。そして、身体自体から異物を出すようハーモニーウォーターのお風呂にしっかり入ろう。新しい大自然の創造に参加するために努力することはすなわち、生きている間を健康に過ごすことだと知った。
水があるじゃないか、ハーモニーウォーターがあるじゃないか。
生命いのちの営みに水が不可欠。水にこだわることは生命を全うするための大きな鍵。
生きていても亡くなくても生態系の一員でいるこの個体、生態系に貢献する水、ハーモニーウォーターでなければ私の願う貢献にはならない。
あなたの水は新しい大自然の創造に参加できる要件を持った水ですか
私はハーモニーウォーターを大切な人と共に伝えていきたい

2013.9.26

貢献の形

こうち水たより 100号より
現代と未来に向かって

物造りと考え方の基本をここに置いてS T Sは在ります。

「今だけ良くても、それは明日に責任が持てるものか」この大前提をクリアしなければ製品として登場しません。

初めて秋田を訪ねて14年。私を取り巻く様子も大きく変わりましたが、何より気候の変動、社会の変動は驚くばかりの内容を現しています。

この高知も暑い暑い夏。千年に一度とも言われているようですが、もしかしたら来年がもっと厳しいのかもしれない。

40度を超える日が何日もあり、夏が5月から10月になったともいわれています。

もはや温帯とは言いづらい気候です。海の中の生き物、川に棲む生き物、山の生り物、畑の野菜たち、私たちへの変化の前に、甚大な変化を受けているのではと思われまます。社会の変動では、2011年3月11日の東日本大震災が忘れられない日本中の悲しい出来事として、第一に挙げられます。想像もしなかったこの試練。まだ終焉も見えず、迷いの中にあります。

多くの人の悲しみを知ってもなお、日本は大きく方向を見直すことが出来ていない実態に、この国はどこかに生命に対する、畏敬の念を置いてきたのではないかと感じてしまいます。

私はS T Sに関わり『尊ばれること』を教わりました。それぞれが様々な体験を重ね、今、ここにいます。

その私たちの前に生きた人も、これから生命を与えられ生きる人たちも、同じように

『生命』という軸を愛おしんで暮らしていきます。

第一に尊ばれること、それはこの地球で違いを越えて「どの生命も代わることの出来ないひとつの生命」

として大切にすること。

まさに、「生命の尊厳」だと知ることになりました。

「生命」は見えるもの、見えないものに助けられ続きます。

その生命の営みに欠かせないのが「水」。これこそが尊ばれることのひとつ。生態系に貢献する水、ハーモニーウォーターは健やかな生命の触媒と言えます。

全てではないが、重要部分を担います。

多くの方が自らの生命と他の生命に対して、ハーモニーウォーターを通して健やかさを手にできたら、どんなに嬉しい事でしょう。多くの物を排出する「台所」は、巡り巡って私たちの元にやってくる「地球製造の工場」ともいえます。

もう一度、この国から「尊く、美しい願い」を世界に向かって発信しませんか。

「水たより」100号に関して、これまでのあれこれを載せようと考えたのですが、「私はこれから先の100年を見たい」と代表が一言。

目の付け処、思いの構築がなんと前向きかと、つくづく知らされ、こういう方がハーモニーウォーターをどんどん進化させて発表できるのだと納得し、ありがたく思いました。

これからもみなさんと共に、尊ばれることに向かって、歩みたいと願っております。

水辺にて 随筆

2015.3.14

貢献の形

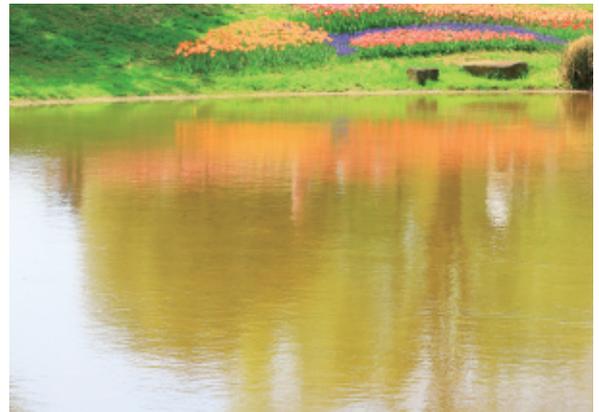
水のそばに花は咲き、草は育ち、鳥が寄り、魚たちがはね、虫はせわしげに羽音を響かせる。

大木はその体に水脈を激しく吸い上げ、葉を茂らせる。空はその水分量により、晴れにも雨にも嵐にも虹をも見せる。

私たちは体に水をたくわえて生きる。そしてなお、日々水を欲し、体に注ぎ続ける。自然を含め私たちは水辺の生き物である。この水辺の生き物は時に水に寄り添わず、他をことごとく優先してしまった。

便利さや勢いに押され、水辺から離れるかのように振るまってしまった。

あげく水は汚れ、当たり前で営んでいた他の水辺の生き物を困難に向かわせてしまった。



厳冬後のあの山の岩の隙間から湧き出す雪解け水が生命を生み、育むという。これを「春」と呼ぶ。

初めは空耳かと思うような、かすかな破裂音「ピチッ」これが間断なく連鎖し、山から怒涛のように春を告げまわる。

瀕死の生き物は、みるみる生命を吹き返しあるいは、次の生命へとたすきをつなぐ。

田舎を持つ者は幸福である。自らが「水辺の生き物」とすぐに思い当たる。自然の中に生かされ、その一員であること、その責任者でもあることも理解できる。

さて、ハーモニーウォーターは自然回帰ではなく蘇生を願う水であることはご存知だろうか。

水に寄り添いながら、生命のメビウスを復活、維持させたい。「水分」にとどまらずそこに生命の拠り所、生命の子育てを充実させたいと追及した水である。

あれから時は流れ「ありのまま」が自然とはもはや言えなくなった。水辺の仕事である漁師の廃業が相次いでいる。「魚がいない」というのがその第1位を占めている。

やっぱり自然にするために知恵と技術が必要になった。自然にある法則を最大限に駆使して「思い+知+術」これで、ハーモニーウォーター（Sky）は誕生した。

おいしい水、健康になる水、これを超えた、生態系に貢献する（水辺の生き物が願う）水。この旨をもって台所から「春」を伝える。私は田舎に生まれ、幼少期はほぼ山で遊び、大きな梅干おにぎり2つで日の暮れまで跳ねた。沢の水を両手ですくい、のどを鳴らし、後は何もいらなかった。



山は生きていた。ありのままに健やかだった。そこで跳ねる私は、どんな遊具より魅力を感じ、楽しくって仕方なかった。

ハーモニーウォーターがあって良かった。そう思う。山に行けなくても、水辺の生き物として、山とつながっていられ、春を告げることができる。

あなたのハーモニーウォーターも山とつながっている。山の風景の復活に関わっていると知って欲しい。

春の早朝、水辺の生き物として思い沸く。さあ、朝日が昇る。



執筆 企画研究開発室 室長 谷岡 瞳



意識は環境を変える

あなたの貢献の形
みつけられましたか？